

森田思軒 思軒 翻譯家。文久元年七月二十一日滿中國生れ、明治二十一年十一月十四日歿（二六二一七）。本名文藏。別號ニ厨裏、大塊生、後覺庵主人、思軒居士、思軒生、思軒林主客、思軒野客、惺々齋、沈（沉歟）紫生、獨醒子、癡笑軒學人、白蓮庵主人、省庵居士、笠峯居士、紅杏園主人、羊角山人、臥禪居士、桂陰散史、蒼巖園主人、醉思軒、靜廬外史等。慶應義塾等ニ學ぶ。『郵便報知新聞』記者となり海外ニ特派。のち國會新聞社を經テ朝報社入社。明治朝翻譯家の雄。また報知社時代の村上浪六を世に出す。

著譯書、松葉豆腐著『西俗雜話』（刪潤、明治二十年十月成文堂）、ウキウトルエーゴ一隨見録『探偵エーブル』（内題「探偵エーブル」譯、明治二十一年八月十九日民友社）、ツエツケ作『破茶碗』（思軒居士名、譯、明治二十二年同好會、春陽堂發賣。三版。二十五年五月十九日春陽堂）、『國民小説』（合著、明治二十二年十月二十日民友社）、『ウキウトルエーゴ一隨見録』、『懷舊』（譯、再版、明治二十六年一月七日民友社）、『第二國民小説』（思軒居士名、合著、明治二十六年六月一日民友社）、續著『賴山陽及其時代』（徳富蘇峰山路愛山校定、明治二十一年五月十日民友社）、『文豪』（ウキウトルエーゴ一隨見録）

『ゴ一小品』（重譯、明治二十二年六月四日民友社）、『無名氏』（譯、明治二十一年九月十一日春陽堂）、『青春のたれ』（合著、明治二十四年一月二十日春陽堂）、『睡土集』（合著、江原青々園後編、留外編、明治二十九年九月十九日春陽堂）、『エーゴ一著』、『死刑前の六時間』（譯、木村毅解題、大正十五年一月十日東京堂）『明治文藝名著全集』（、ジエ

一ル・ブルヌ作『十五少年』（譯、昭和十二年十月一日岩波書店）『岩

